

■ ご挨拶 ■

第77回日本医学放射線学会総会を開催するにあたって

第77回日本医学放射線学会総会 会長
東海大学医学部専門診療学系画像診断学 教授
今井 裕



第77回日本医学放射線学会総会を開催するにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

本総会(JRS)は、2018年4月12日(木)～15日(日)の4日間、パシフィコ横浜にて、第74回日本放射線技術学会総会学術大会(JSRT)、第115回日本医学物理学会学術大会(JSMP)および国際医用画像総合展(ITEM 2018)との合同で、Japan Radiology Congress(JRC)2018として開催いたします。JRCは、1987年に北米放射線学会(RSNA)を参考にして放射線医学関連の学術集会と機器展示との合同で開催する目的に日本医学学術集会振興協会(Japan Federation of Medical Congress Promotion: JMCP)が設立され、翌年の1988年3月29日に東京晴海国際見本市会場にて第1回JMCP学術大会が開催されました。そして2002年には、現在のJRCの名称に変更されています。したがって、学術集会と機器展示の合同開催が誕生して、今年のJRC2018学術大会は記念すべき30回目になります。このような永い歴史のあるJRCは、これまでに放射線医学と関連のある重要な3学会と急速な進歩を遂げている放射線医療機器を展示することにより、学会員ならびに放射線医療に従事する、あるいは目指す若い研究者達に、将来の放射線医療の方向性を指し示す羅針盤としての大きな役割を果たし、彼らに多くの勇気と希望を与えて参りました。

第77回日本医学放射線学会総会の主題は、“夢のような創造科学と人にやさしい放射線医学”(Innovative Science and Humanism in Radiology)と致しました。放射線医学は、近年の医療技術や画像診断装置の急速な進歩・発展により我が国の医療において欠くことのできない重要な領域となっています。したがって本総会は、将来の国際社会における放射線医学や医療の役割をデザイン、そして予知できるような学会にしたいと考えています。日本医学放射線学会は、これからも夢のような創造科学を追究して参りますが、一方、診療におきましては、温かな血の通った人の手、人間の手に支えられた放射線医療でなければなりません。どんなに科学技術や人工知能(artificial intelligence: AI)が進化しても、それを扱うのはあくまでも人間であります。それゆえに創造的な頭脳と豊かな人間性を兼ね備えた放射線科医の育成や教育は極めて重要です。このような主題(テーマ)に沿ったプログラムを企画いたしました。

4団体の合同企画としては、4月13日(金)に国際医用画像総合展の開会式からスタートします。この展示会は医療関係者が最新の医療機器の進歩や多くの可能性を自分の目や耳で確認できる場所であり、今後の放射線医療の方向性を知ることのできる重要な機会でもあります。この国際医用画像総合展は、放射線医療を支える医療機器メーカーのほか、有用性の高い、そしてより安全な造影剤の開発を目指す製薬企業など多くの企業の

協力により開催されます。この場を借りて、心から感謝申し上げたいと思います。

合同開会式では、3学会の大会長ならびにJIRA会長から各団体の今後の将来構想や方向性に関する講演を予定しています。また、表彰式では、海外からはハーバード大学のHerbert Y, Kressel教授、ユタ大学のSatoshi Minoshima教授、ソウル国立大学のSeung Hyup Kim教授の3名に、国内からは、松井 修先生、早瀬 尚文先生、片田 和広先生、山田 章吾先生、甲田 英一先生の5名に名誉会員の称号が授与されます。また、特別講演は、2002年にノーベル化学賞を受賞された田中 耕一先生に、“分析と医用の融合によるヘルスケアへの新展開のために”と題した最近の研究成果も含めての講演をお願いしています。

3学会の合同シンポジウムとして、合同シンポジウム1では、放射線医療において欠くことのできない最重要課題である「医療被ばく低減に向けての取り組み」を取り上げ、Keynote LectureをICRP ChairのClaire Cousins会長にお願いしています。合同シンポジウム2は、「本質に迫る研究をしよう！:前臨床研究へのお誘い」として、最先端の放射線医学研究に関する企画で、最後に米国国立がん研究所の小林 久隆先生に招待講演をお願いしています。合同シンポジウム3は、最近注目されているRadiomics研究を取り上げ、「放射線診療におけるRadiomics研究の現状」とした新しいテーマを企画しています。

さらに、合同教育セッションとして、「前立腺がんの診断から治療まで」を企画しました。これは、泌尿器科医、放射線診断医、放射線がん治療医、核医学専門医、放射線技師、医学物理士など前立腺がんの診断から治療に携わるすべての職種立場からの教育講演をまとめた企画であり、それぞれの職種の専門性を再確認できると思います。

日本医学放射線学会総会は、放射線医学全領域を網羅する学術集会であり、多分野から最新の研究成果や医学教育の報告のほか多数のシンポジウムが開催されます。また、日本国内のみならず、海外からの研究者も多く参加され、質の高い討論が行われます。従いまして教育講演を除いて発表スライドや展示発表は、原則英語として海外からの参加者にも、より親しみやすい国際学会にしたいと考えています。本総会では、最近の放射線医学や医療分野における診断と治療に係わる重要なテーマからなる12のシンポジウムのほか、6つのSpecial focus sessionを企画し、国内外からの多数のInvited speakerによる講演と討議をお願いしており、将来の放射線医療のあるべき姿を示唆し、予測する企画にしたいと考えています。

本総会は、若い放射線科医や研究者のための教育も重要なテーマとして取り上げており、39のテーマからなる教育講演、診断と治療に関する2つの研修医セミナーのほかに、12日(木)午後には、特別企画として頭頸部、胸部、婦人科領域において現在世界で最も活躍されている放射線科専門医による特別企画「症例で紐解く画像診断のコツ～エキスパートから学ぶ」を開講します。また、14日(土)午後には、毎年コンクールで金賞を受賞している東海大学吹奏楽研究会による演奏と引き続いてプロ野球界で活躍された原 辰徳 前読売巨人軍監督と柔道界で活躍されている井上 康生 全日本柔道連盟監督による座談会「スポーツにおける人材育成」を予定しています。同日の最後には、若い放射線科医にとって良い勉強の機会となる恒例のイメージ・インタープリテーション・セッション・セッションを双方向性の新形式で開催します。

国際学会との共同企画としては、13日(金)午前にはRSNAとECRの代表者による権威ある2つの国際学会の紹介と報告をお願いしています。また、AOSORとJRSとの合同開催であるAsian Oceanian School of Radiology Conjoint Sessionでは、「脳拡散強調画像の基礎から先端」をテーマに最先端の講演と討議をお願いしています。また、昨年に引き続いて第3回Asia Radiology Summitも開催いたします。

開催地の横浜は、世界でも最も美しい港町の一つとして知られており、春には桜の花が街を彩ります。どうぞ美しい横浜の街も、大いに楽しんで頂きたいと思います。

多くの皆さまのJRC 2018へのご参加を心からお願い申し上げます。